

特集：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

巻頭言

今月より第 57 期がスタートしました。そのキックオフとして、先週 8 日の土曜日に第 25 回となる経営計画発表会を実施しました。例年 2 月の第一土曜日に実施していますが、あっという間の四半世紀です。

当時を振り返ってみると、今は豚コレラ・ノロウイルス・新型コロナウイルスなど、ウイルス感染が猛威を振るっていますが、当時は、多剤耐性の黄色ブドウ球菌、緑膿菌、腸球菌と云った細菌による「院内感染」が猛威を振るっていました。マルマでは、当時、微生物管理の一環である院内感染対策として、総合病院の手術室や ICU と云った清浄度レベルの高い施設の殺菌施工を実施していました。殺菌処理をし、その効果判定のため、殺菌前後の細菌検査をするという仕事です。今では殺菌剤の散布から、大掃除的な消毒液による清拭施工に代わってきましたが、今でも人間が細菌をコントロール出来るようになった訳ではなく、ウイルスと併せて、対応はさらに難しくなるものと考えています。これまで以上にマルマの対応領域は広がり、今まで以上に高い知識と技術の習得が求められます。

実は、その 25 年前の日曜日の朝、急にお腹が痛くなり、救急外来を受診しました。診断の結果「盲腸らしい」と言われ「盲腸は取ってもかまわないから」と、手術を勧められました。その時、他の総合病院の殺菌施工の仕事を終えたばかりで、結果報告の説明に何う約束をしていましたので、薬で痛みも和らいでいたこともあり、外出願いと併せて、手術が必要なら他の病院でやりたいので診断書をお願いしたい旨を伝えました。すると翌日、突然、退院して良いと言われ、その日に退院させられました。診断書ももらえず、痛み止めももらえず（そのまま治まりましたが）、そのまま 25 年が経ちました。今思うと、手術がしたかっただけではと勘繰りたくありません。

でも、手術なんてしなくて、ほんと、良かったですよ。25 年経って、盲腸も必要な臓器であることが分かってきましたし、それに院内感染にでも掛かっていたら大変でした。

第 57 期も頑張ります。

(雅)

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

昨年 12 月に中国の湖北省武漢市において、新型コロナウイルス感染症の発生が報告されて以来、世界各地で患者発生報告が続いています。世界保健機関（WHO）は、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に該当すると 1 月 31 日に発表しました。感染症の報告以降 1 ヶ月以上が経ち、感染後の症状など徐々に明らかになってきており、病名は COVID-19 と名付けられました。そこで今回のエムテックインフォメーションでは、先月に引き続き新型コロナウイルス感染症についてご紹介します。

COVID-19 の現状

<中国での感染者数の急増>

昨年 12 月に中国の湖北省武漢市で初めて COVID-19 の感染者が確認されて以降、中国全土で感染者数が急増しています。

中国の保健当局、国家衛生健康委員会が中国全土の感染者数の発表を始めた 1 月 21 日の感染者数は 291 人でしたが、2 月 13 日時点で 63,851 人となっています（図 1）。

<WHO による緊急事態宣言>

中国国内だけでの感染にとどまらず、1 月末には日本など中国以外でもヒトからヒトへの感染が確認されたことから、WHO が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態宣言」を発表しました（表 1）。しかしながら、2 月 4 日には担当者が、まだパンデミックではなく、複数の場所で流行が見られるエピソードの状況にあるとの見解を示しました。

<世界各地に感染拡大>

2 月 13 日時点で、アジア、欧州、北米など 27 の国と地域に感染が拡大しており、全世界で感染者数は 64,186 人となっています。

同じくコロナウイルスの 1 種が原因で 2002～2003 年に発生した SARS（重症急性呼吸器症候群）は最終的に全世界での感染者が 8,098 人であり、COVID-19 感染者数はすでに SARS を大幅に上回っている状況で、今後も患者数はさらに増加すると思われます。

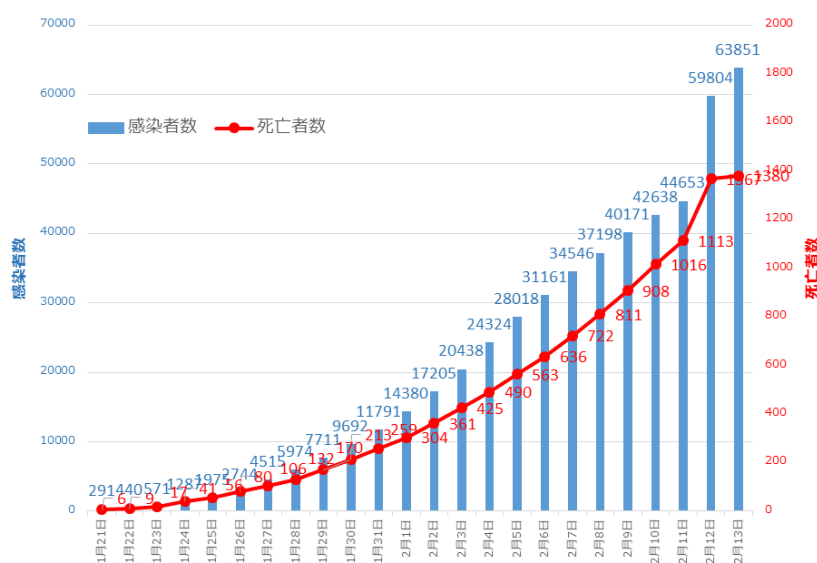


図 1 中国の COVID-19 感染者数、死亡者数の推移
(国家衛生健康委員会ホームページのデータを基に作成)

表 1 WHO 動向

年月日	WHO 動向
19/12/31	中国・武漢市で原因不明の肺炎が発生していると発表
20/01/09	肺炎の原因は新型コロナウイルスであると発表
01/23	ヒトからヒトへの感染は認めたが、緊急事態宣言は見送り
01/31	「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言
02/04	エピソードの状況にあるとの見解を示した
02/11	病名を COVID-19 と命名

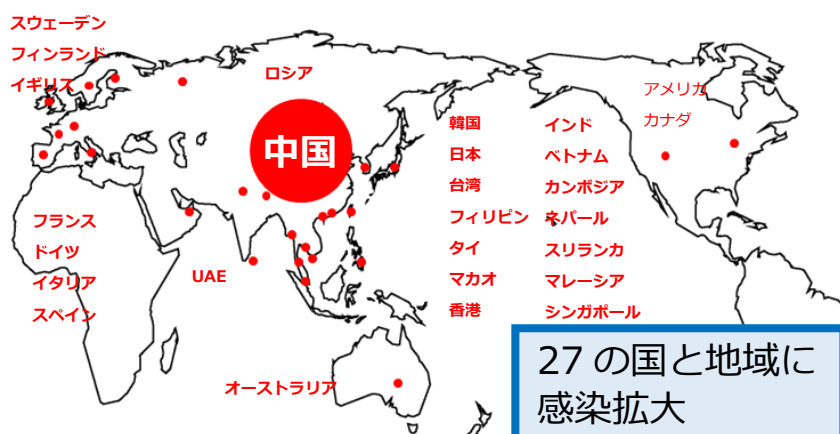


図 2 COVID-19 感染者が確認された国と地域
(厚生労働省ホームページのデータを基に作成)

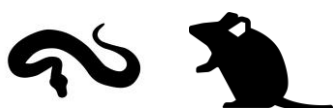
COVID-19 とは

COVID-19 とは、新型コロナウイルス（2019-nCoV）が原因とされる感染症のことです。

<発生源>

どのような経緯で新型コロナウイルスが人に感染するようになったのか明確には解明されていません。

中国武漢市の市場で集団発生したことから、そこで売られている食用の生きている動物などからの感染の可能性が考えられています。



<症状>

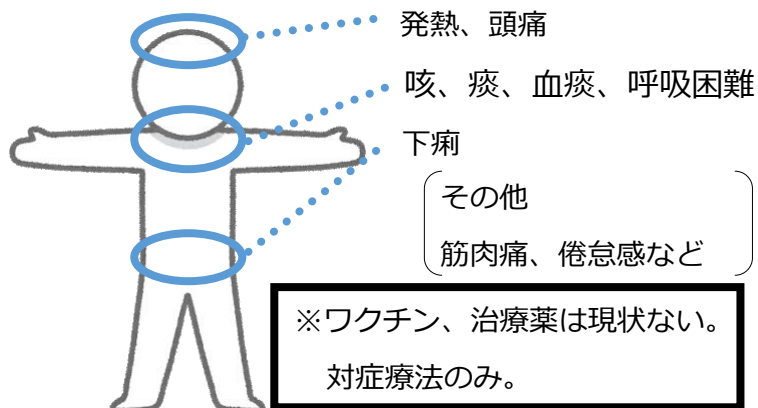


図3 COVID-19 の症状例
(Chaolin Huang, et al : Lancet. 2020.のデータを基に作成)

<ヒトからヒトへの感染経路> ※現時点では2つの感染経路が考えられています。

- ・ **飛沫感染**：感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、近くにいる人がそのウイルスを鼻から吸い込んで感染。
※主な感染場所：学校や劇場、満員電車などの**人が多く集まる場所**
- ・ **接触感染**：感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周囲の物に触れるとウイルスが付きます。他の人がその物を触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触って粘膜から感染。
※主な感染場所：電車やバスの**つり革、ドアノブ、スイッチ**など



(新型コロナウイルス感染症に備えて(首相官邸ホームページ)を加工して作成)

感染拡大を防ぐために

COVID-19 の感染拡大を防ぐために、各国が対策を行っています。日本では、COVID-19 を「指定感染症」と「検疫感染症」に指定する政令が2月1日に施行され、下記のような対応が取られています。また、私たち一人ひとりができる感染拡大対策として「咳エチケット」が推奨されています。皆さんも、咳をする時には咳エチケットを意識するようにして下さい。

<指定感染症に指定>

- ・ 患者を**強制的に入院**させることができる
- ・ 患者に一定期間**仕事を休むよう指示**できる
- ・ 患者数の把握、濃厚接触者の調査がしやすくなる

<検疫感染症に指定>

- ・ 日本への入国者に対し、**質問、診察、検査、消毒**等が可能になる

<咳エチケット> 咳やくしゃみをするときに



害虫獣紹介

ヒョウヒダニ類（チリダニ類）

アレルギーといえ、花粉や食べ物を思い浮かべる人が多いと思います。しかし、それ以外にダニが原因となるアレルギーもあります。今回はアレルギーの原因となるヒョウヒダニ類についてお話しします。

生態

ヒョウヒダニ類は体長0.3～0.4mmと肉眼で見つけるのは難しい小さな淡褐色の体をしたダニです。人間のフケや微小なゴミをエサとし、ホコリの中や湿度の高い場所を好むことから、家屋の寝具、畳、絨毯など住環境のあらゆる場所でほぼ一年中見かけます。卵から成虫になるまでに約1ヶ月かかり、成虫の寿命は2～3ヶ月とされています。ヒョウヒダニ類にはコナヒョウヒダニとヤケヒョウヒダニなどがあり、室内にいるダニの大半はこの2種類が占めます。

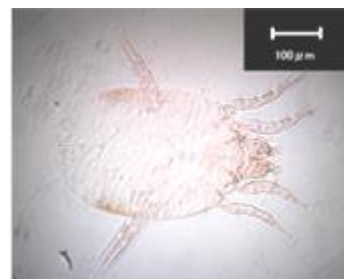


図 ヒョウヒダニの1種
Pyroglyphidae

被害

ヒョウヒダニ類が人に直接危害を加えることはありません。しかし、ヒョウヒダニ類の死骸や排泄物はアレルギーの原因となり、喘息発作などを引き起こします。また、ヒョウヒダニ類が多くなると、ヒョウヒダニ類を捕食するツメダニ類が発生します。ツメダニ類はヒョウヒダニ類とは異なり刺咬性があるため、間接的にヒョウヒダニ類がいることで刺咬被害が起こる可能性があります。

対策

部屋のホコリの清掃が大事です。清掃を行うことでヒョウヒダニ類を駆除するだけでなく、アレルギーの原因となる死骸や排泄物、エサとなるフケなどの有機物の除去にもなります。また、部屋の換気、寝具の天日干し、薬剤散布も有効です。喘息や痒みなどのアレルギー症状が出た時は、ヒョウヒダニ類が増加している可能性があるため、専門の業者に調査依頼することを推奨します。ヒョウヒダニ類の存在は確認できたら、業者に駆除依頼をしましょう。

食中毒情報

今月も、ノロウイルスを原因とした食中毒が最も多く発生していました。多い状況が続いており、100人越えの食中毒事件も複数発生しているため、注意をお願いします。

今月は、有毒植物の「グロリオサ」を原因とした食中毒が発生しており、喫食した男性は敗血症多臓器不全で亡くなってしまいました。グロリオサは美しい花で園芸用として市販されていますが、コルヒチンという有毒成分を含んでいます。地下部の塊茎が山芋によく似ているため、厚生労働省でも誤食の注意喚起をしています。亡くなった男性は、自宅で山芋も栽培していたため、誤って食べてしまったようです。家庭菜園などで栽培している植物を食べる時には、特に有毒植物の誤食を起こさないように注意をお願いします。

全国食中毒発生状況 (1/15～2/14 新聞発表分等)

原因物質	事例	感染者数
ノロウイルス	24	800
寄生虫	9	9
自然毒	3	5
サルモネラ	1	12
不明・その他	9	381

『ひとつ、ふたつ・・・快適環境を生み出します』

MARUMA MITEC
株式会社 マルマ エムテック 衛生検査所

メールアドレス：info@maruma-ec.co.jp

本 社 / 〒430-0807 浜松市中区佐藤 2 丁目 5-11
TEL : (053)464-6400 FAX : (053)465-4120
東京支店 / 〒194-0005 東京都町田市南町田 2-15-14-402
TEL : (042)850-6454 FAX : (042)850-6456
静岡支店 / 〒422-8046 静岡市駿河区中島 960-1
TEL : (054)202-0210 FAX : (054)202-0220

名古屋支店 / 〒496-0027 愛知県津島市津島北新開 234-2
TEL : (0567)69-4080 FAX : (0567)69-4081
関西支店 / 〒658-0026 兵庫県神戸市東灘区魚崎西町 2-4-15
TEL : (078)842-6755 FAX : (078)858-6802
福岡支店 / 〒814-0161 福岡県福岡市早良区飯倉 5-10-3-102
TEL : (092)707-7810 FAX : (092)707-7870